

総務文教委員会行政視察

- 出席委員／堀越委員長 村上副委員長 道法委員 大川委員 川本委員 高重委員
●日 程／5月20日～22日

●余市町に学ぶ特産品を核とした地域振興 《北海道余市町》

竹原市と交流都市提携を締結している北海道余市町を視察しました。同町では、ワインを核とした地域振興施策を実施しており、自治体連携によるプロモーションや若い世代へのワイン文化の普及、醸造環境の高度化や関係人口創出に向けたプラットフォーム整備を推進しています。

ワイン産業の成果は顕著で、ふるさと納税額約19億円のうち約3億円をワインが占め、子育てや教育、産業支援などで市民に還元されています。今後は食とワインの高付加価値化や、受入態勢の整備による*「ガストロノミーツーリズム」を展開予定とのことでした。

本市でも、地域の特産品を活かした持続可能な地域振興や財源確保に繋げる施策を提言してまいります。

※ガストロノミーツーリズム

その土地の気候や風土が育んだ食材、歴史、伝統が生み出す「食文化」に触れ、味わうことを目的とした旅行スタイル



●ニセコ町でのこども参画のまちづくり 《北海道ニセコ町》

ニセコ町では「子どもも大切な市民」という方針のもと、小中学生が行政に参加する「子ども議会」や「まちづくり委員会」を熱心に行っています。

活動は多彩で、人気ゲーム「マインクラフト」での未来の町設計や防災マップ作成、学校給食の企画など、子どもたちの柔軟な発想を実際の施策に反映しています。さらに「子ども議会」では町長らに直接質問を行い、街灯の整備や公園の遊具復活など、具体的な成果も生まれています。自分たちの声で町が変わる成功体験は、郷土愛と自分で考える力を育てています。

「難しい行政用語の分かりやすい説明」や「中学生の参加促進」などの課題も共有いただきました。子どもの真っ直ぐな視点は、大人が気づかない地域の宝や課題を教えてください。本市でも、子どもたちが主役となり「自分ごと」として地域に関われる仕組みづくりに、今回の学びを活かしてまいります。



●千歳防災学習交流センターそなえーる 《北海道千歳市》

近年、デジタルが重宝される中、災害時における目視での確認や視認性等の面においてはアナログも重要との説明でした。

また、体験型の避難シミュレーションでは、団体行動と単独行動ではかなりの差が出ることが分かり、より現実に近い体験をすることができました。

